

「何かいな、此處におぢやれと云ふ者があるか」

「へい、御座ります」

「ひとつ呼んで貰へんか」

「お一人さんでおますか」

「否、三人や」

「あの今晚はたてこんでおりますので、三人さんは出来  
ますか知らん……」

「一寸聞いてみてんか」

「ひとつ尋ねてみまひよう」

「オイ清やん、今晚はいそがしいらしいで」

「アノお客さん、誠にすみまへんがお二人しかござりま  
へんが」

「二人しか無いか、三人居るのに二人では具合が悪い、

三人無いか」

「ハイお一人さんはおびくさんでは如何で御座ります」

「そらお菊さんでも、お梅さんでも、お松さんでもだん

ない」

「アノ、お菊さんや御座りまへん、お比丘尼さん、あの  
尼さんで御座ります」

「何んや尼さん、尼さんと云ふたら坊さんやないか」

「左様で」

「坊さんの女は色氣が無いな、やつぱり髪を結ふてんと  
たよりないがな」

「けれどもお一人だけだす」

「サア、一人でも」

「何誰かお一人御辛抱願ひます」

「誰が辛抱するねん」

「くぢにしよう」

「それがよかろう、そんならたのむ」

「かしこまりました」

暫くいたしますと女中に送られて参りました。

「アノお客さん、連れて参りました、向ひ部屋を三つ空

「おいでやす、一寸頭を……ア、坊さんや、さつぱりわ  
や、私に當つた」

次に二番目が

「御免やす」

「おいでやす、一寸頭を……ア、坊さんや、私に當たつ  
さつぱりわや」

次が三番目で

「御免やす」

「そら來た、どうぞ坊んさんが當りまへん様に……一寸  
頭を……こらあかん私に當つた、オイ揃ふた、元の座  
敷へ行こう」

と三人が明い處へ参りますと、三人共坊さんで、

「ア、三人共坊さんや、これは片身恨みが無うてえ」  
皆が大笑ひをいたしました、

「アア清やん、先刻の侍どうしてるやろ、私一遍見て來  
るは」

「コレ喜イやん、今度行つたら首を落されるで」

喜イやんや」

「そんなら順番に部屋へ這入ろう」

と各々部屋へ這入つて待つて居りますと

「下から揚げますせ……」

「御免やす」

這入つて参りましたので清さんが、